

広島県北広島町における  
高病原性鳥インフルエンザ  
発生に係る庁内連絡会議

日時：令和6年3月12日（火）  
午後3時～

場所：第三応接室（県庁本庁舎3階）

出席：知事

鳥インフルエンザ対策チーム

（副知事、農林水産部、生活環境部）

危機管理部

## 会議内容

- 1 広島県北広島町での発生概要（国内10例目）
- 2 国の対応
- 3 国内における鳥インフルエンザ発生・検出状況
- 4 鳥取県の対応（家きん）
- 5 野鳥サーベイランス等
- 6 県民への情報提供等

# 広島県北広島町での発生概要（国内10例目）

## 1 飼養状況

所在地：広島県山県（やまがた）郡北広島町

飼養状況：約8万羽（採卵鶏）

## 2 経緯

- ・令和6年3月11日（月）午後1時45分に飼養者から西部畜産事務所（家畜保健衛生所）に死亡数増加の連絡
- ・家畜防疫員が現地調査を行い、簡易検査で13羽中9羽陽性
- ・西部畜産事務所（家畜保健衛生所）のPCR検査で高病原性鳥インフルエンザ陽性を確認し、3月12日（火）朝、農林水産省が疑似患畜と判定

## 3 広島県の対応

- ・3月12日（火）8時30分から、殺処分・消毒の防疫措置を開始
- ・移動制限区域の設定（半径3km以内） 0農場
- ・搬出制限区域の設定（半径3～10km） 3農場 約1,600羽
- ・消毒ポイント4か所設置（24時間）

# 国の対応

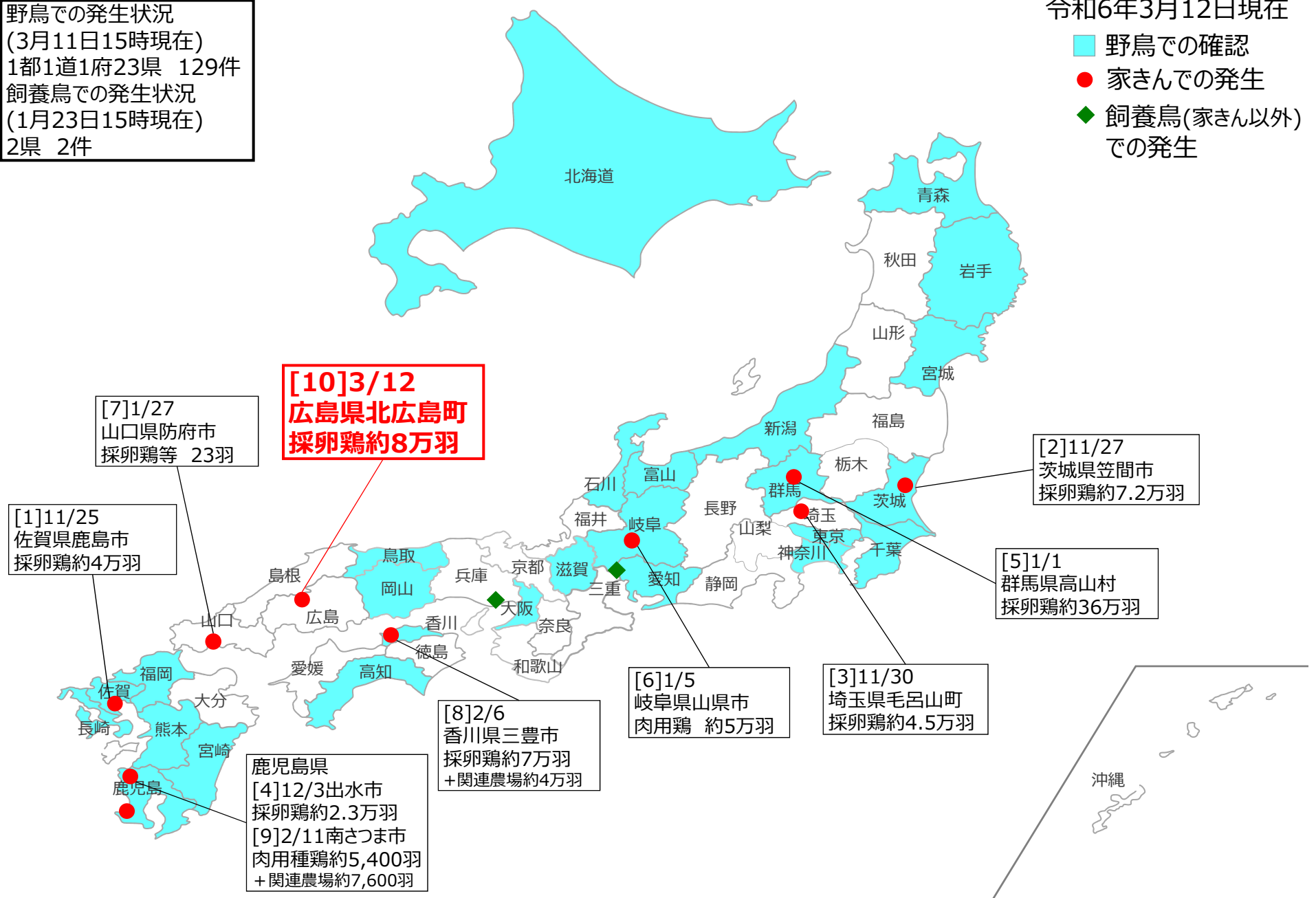
1. 3月12日(火)に持ち回りで「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」開催
2. 広島県知事と武村農林水産副大臣のオンライン会談等により緊密な連携を図る
3. 必要に応じて、食料・農業・農村政策審議会 家畜衛生部会 家きん疾病小委員会を開催し、防疫対策に必要な技術的助言を得る
4. 殺処分・焼埋却等の防疫措置を支援するため、必要に応じ、動物検疫所等から「緊急支援チーム」を派遣
5. 「疫学調査チーム」を派遣し、調査を実施
6. 全都道府県に対し、改めて注意喚起し、本病の早期発見及び早期通報並びに飼養衛生管理の徹底を指導
7. 関係府省庁と十分連携を図りつつ、生産者、消費者、流通業者等への正確な情報の提供

# 国内における鳥インフルエンザ発生・検出状況

令和6年3月12日現在

- 野鳥での確認
- 家きんでの発生
- ◆ 飼養鳥(家きん以外)での発生

野鳥での発生状況  
(3月11日15時現在)  
1都1道1府23県 129件  
飼養鳥での発生状況  
(1月23日15時現在)  
2県 2件



## 鳥取県の対応(家きん)

- 1 県内全78農場に対し、注意喚起と消毒の徹底を指示(3/12)
- 2 発生農場と県内農場とは鶏や作業者の行き来などの疫学関連がないことを確認済み
- 3 全農場に発生防止対策を取りまとめたチラシを配布して、発生予防について再度周知徹底済。シーズン中は毎月農家が飼養衛生管理基準の遵守状況を点検し報告、家畜保健衛生所が巡回確認
- 4 野鳥飛来対策として、鶏舎に近接(300m以内)するため池の管理者に水抜き等の協力を依頼し、7か所で対応済
- 5 県内での発生に備え、備蓄資材や協定締結団体との連絡体制を確認済
- 6 中国5県で広島県の発生情報を共有。今回、家畜防疫員の派遣、防疫資材の融通の要請無し。(広島県から連絡)

# 野鳥サーベイランス等

## ○野鳥サーベイランス強化を継続中

### 1 野鳥監視

- ・渡り鳥が集まる河川、湖沼等70カ所において、飛来が多いカモ類を中心に種類・個体数を確認し、死亡等の異常の有無を監視

⇒北帰行が始まり、渡り鳥の飛来数は減少傾向だが、国内移動によるウイルス拡散のリスクがあるため野鳥監視を継続

⇒3/12時点で異常なし

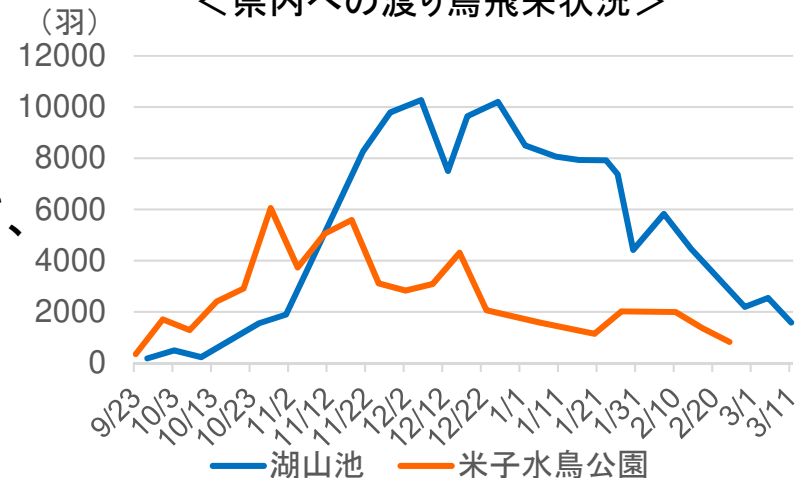
### 2 糞便・環境水調査

- ・鳥取大学共同獣医学科山口教授の協力を得て、湖沼等で野鳥の糞便・環境水を調査

⇒12/12東郷池での陽性確認以降は、3/12時点ですべて陰性

野鳥監視	全体70カ所 毎日(既発地点) 週3回
糞便等調査	毎週
	6カ所
	日光地区、湖山池 米子水鳥公園 東郷池 天神川、佐陀川

＜県内への渡り鳥飛来状況＞



※愛玩鳥を飼育されている方、愛玩鳥の販売者や学校・公園等への注意喚起は3/12までに5回実施済。県ホームページで飼育上の注意事項について周知中。

# 県民への情報提供

- 関係機関等と連携を図り、正確な情報提供を実施
- ホームページ等でも野鳥等との接し方や異常な野鳥等の発見時の対応、愛玩鳥の飼育方法、食の安全についての相談窓口を周知し、県民からの相談に対応
- 県ホームページ「とりネット」の鳥インフルエンザの特設サイトにより、家きん、野鳥、愛玩鳥について総合的に情報提供

## 高病原性鳥インフルエンザへの対応

### 県民の皆様へのメッセージ

家きん卵、家きん肉を食べることにより、鳥インフルエンザウイルスが人に感染することは世界的に報告されています。鳥インフルエンザウイルスは感染した鶏との濃密な接触等の特殊な場合を除き、通常では人に感染しないとされていますが、県民の皆様には次のことをお願いします。

- 野鳥を素手で触らないでください。
- 野鳥や鳥の排泄物に触れた場合は、手洗いやうがいをしてください。また、野鳥の排泄物を踏んだ時はウイルスが拡散しないよう靴裏を水などで洗浄してください。
- 異常な野鳥や死亡または衰弱した野鳥を見つけたときは、自然共生課、最寄りの県総合事務所環境建築局に連絡し、その指示に従ってください。

※異常な野鳥：首を傾けてふらついていたり、首をのけぞらせて立っていられなくなるような神経症状、重度の結膜炎等を発症している野鳥

### 鳥インフルエンザに関する情報について

- [家きんの情報はこちら](#)
- [野鳥の情報はこちら](#)
- [愛玩鳥の情報はこちら](#)

漂着したアザラシやオットセイなど海獣類にご注意

漂着したアザラシ等の海獣類にご注意ください

海外において、アザラシやオットセイなどの海獣類が高病原性鳥インフルエンザに感染し死亡する事例が確認されています。

濃密な接触など特殊な場合を除き、通常では人に感染することはないとされていますが、海岸等で海獣類を発見されても、直接触れないようにしてください。

[高病原性鳥インフルエンザへの対応（とりネット内リンク）](#)

### 漂着したアザラシ等を発見した場合の連絡先

海岸に漂着した海獣類を発見した場合の連絡先

鳥取県土整備事務所 維持管理課  
電話：0857-20-3604、3605 ファクシミリ：0857-20-3598

中部総合事務所 県土整備局 維持管理課  
電話：0858-23-3216、3217 ファクシミリ：0858-22-0013

西部総合事務所 米子県土整備局 維持管理課  
電話：0859-31-9711、9712 ファクシミリ：0859-33-4110

※平日夜間、土日祝日は県災害情報ダイヤル（電話：0857-26-8100）までご連絡ください。

お気に入りページ

お気に入りページ



# 対応窓口

(24時間対応しています。)

## ■野鳥、愛玩鳥に関する相談窓口

自然共生課	0857-26-7979 (夜間休日 0857-26-7111)
くらしの安心推進課(愛玩鳥)	0857-26-7877 ( // )
中部総合事務所環境建築局	0858-23-3149 (夜間休日 0858-22-8141)
西部総合事務所環境建築局	0859-31-9628 (夜間休日 0859-34-6211)

## ■生産者の皆さんの相談窓口

鳥取家畜保健衛生所	0857-53-2240 (夜間休日は転送)
倉吉家畜保健衛生所	0858-26-3341 ( // )
西部家畜保健衛生所	0859-62-0140 ( // )

## ■食の安全に関する相談窓口

鳥取市保健所 生活安全課	0857-30-8552 (夜間休日 0857-22-8111)
中部総合事務所倉吉保健所	0858-23-3117 (夜間休日は転送)
西部総合事務所米子保健所	0859-31-9321 (夜間休日 0859-34-6211)

## ■人の健康に関する相談窓口

鳥取市保健所 保健医療課	0857-30-8532 (ガイダンス等により24時間対応可)
中部総合事務所倉吉保健所	0858-23-3145 ( // )
西部総合事務所米子保健所	0859-31-9317 ( // )

## ■平日夜間、休日、祝日相談窓口

防災当直	0857-26-8100
------	--------------

# 県民の皆様へのメッセージ

- 家きん卵、家きん肉を食べることにより、鳥インフルエンザウイルスが人に感染することは世界的に報告されていません。
  - 鳥インフルエンザウイルスは、感染した鳥との濃厚な接触等の特殊な場合を除き、通常では人に感染しないと考えられていますが、県民の皆様には次のことをお願いします。
    - ・野鳥を素手で触らないでください。
    - ・野鳥や野鳥の排せつ物に触れた場合は、手洗いやうがいをしてください。また、野鳥の排せつ物を踏んだ時はウイルスが拡散しないよう靴裏を水などで洗浄してください。
    - ・異常な野鳥や死亡又は衰弱した野鳥を見つけた時は、自然共生課、最寄りの県総合事務所環境建築局に連絡し、その指示に従ってください。
- ※異常な野鳥：首を傾けてふらついたり、首をのけぞらせて立っていられなくなるような神経症状、重度の結膜炎等を発症している野鳥
- 隣県や県内の野鳥から鳥インフルエンザウイルスが検出されたからといって、直ちに家庭等で飼育している鳥が感染するということはありません。清潔な状態で飼育し、ウイルスを運んでくる可能性がある野鳥と接触させないようにし、鳥の排せつ物に触れた後には手洗いやうがいをお願いします。異常が見られた場合は、まずはかかりつけの獣医師に御相談ください。